

普及活動情勢報告（令和7年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

春先の管理を徹底しましょう ～みょうが部会現地検討会～



意見交換を行う生産者ら

2月20日～3月6日にかけて、JA土佐くろしおみょうが部会が須崎市、中土佐町の4ヶ所で現地検討会を開催し、生産者103人が参加しました。

農業改良普及課は、昨年と今年の外気温、日射量の推移についての説明と、生育調査結果の報告を行いました。また、ミヤコカブリダニに対するベンレート水和剤の影響試験結果を周知しました。

生産者からは、「ミヤコカブリダニに対する影響日数がはっきりしたことで、安心して農薬散布ができる」といった声がありました。

農業改良普及課は今後も関係機関と連携し、巡回指導、実証、調査を通じて、産地の生産力向上・安定化を目指します。

水稻抑草技術等を研修 ～須崎地区集落営農組織等代表者連絡会～



講演を聞く参加者ら

2月21日、須崎総合庁舎で須崎地区集落営農組織等代表者連絡会を開催し、代表者5人、町・JA職員2人が参加しました。

農業改良普及課は有機栽培の抑草技術等について、四万十野菜合同会社代表社員の濱崎氏による講演、JA東とくしまの研修報告を行いました。また、各組織の活動状況や継続していくための課題等について意見交換を行い、「オペレーターの確保」「人手不足」が課題として挙げられました。

参加者アンケートでは3人から「抑草技術に取り組んでみたい」との回答が得られました。

農業改良普及課は今後、水稻の抑草技術の普及に取り組めます。

水田を次世代に引き継ぐために ～須崎市の水稻生産者との意見交換会～



意見交換の様子

3月7日、須崎総合庁舎で、水稻生産者5人、JA土佐くろしお職員3人と意見交換会を開催しました。

農業改良普及課は、須崎市の水稻栽培の現状、地域計画から見てきた現状を伝え、水田を次世代に引き継ぐための仕組みについて説明しました。また、水稻生産者から、栽培面積等の現状や規模拡大の意向を聞き取り、課題等について意見交換を行いました。

生産者から、「機械が大型化しており、運搬車が無いと他の集落の作業には出向けない」「米の値段は少しだけ上がったが、生活できるほどでは無い」といった意見が出されました。

農業改良普及課は今後も、関係機関とともに水田を維持・管理するための取り組みを進めます。

新規就農者の経営状況の確認 ～経営開始資金等受給者の巡回～



農家に聞き取りする普及指導員ら

3月7日、中土佐町の経営開始資金等を受給する新規就農者4戸を中土佐町、JA、農業改良普及課職員が合同で巡回し、経営状況を確認しました。

農業改良普及課は、各新規就農者の課題解決のための取組状況や目標所得の達成状況等について重点的に確認しました。

夏期の高温の影響等による減収で目標未達成となった新規就農者もあり、「できる限り対策できるよう準備を進めている」という声が聞かれました。

農業改良普及課は今後も、関係機関と連携して新規就農者の課題解決を支援します。

甘長トウガラシの佃煮の販売が始まりました ～農家グループ「すまいる」の聞き取り～



販売を開始した甘長トウガラシの佃煮

3月14日、梶原町の「道の駅ゆすはら」で、農家グループ「すまいる」の代表者1人から、令和6年度アップグレードコース受講の成果について聞き取りました。

農業改良普及課は、受講を通じて完成させた佃煮の包材について確認しました。また、ふるさと納税の返礼品として、佃煮とセットにできそうな商品を提案しました。

代表者からは、佃煮の販売を始めたことや、今後も商品開発を続けていくことなどが聞き取れました。

栽培管理にハウス内環境データを活用しましょう ～きゅうり部会現地検討会～



ハウス内環境データについて説明する普及指導員

3月17、18日、須崎市と中土佐町で、JA土佐くろしお園芸部きゅうり部会が現地検討会を開催し、生産者8人が参加しました。

農業改良普及課は、厳寒期におけるハウス内環境データの日ごとの推移、光合成速度のシミュレーションについて説明を行いました。

生産者からは、「温度管理や炭酸ガス管理の違いによって光合成速度が変化することが分かり参考になった」という声がありました。

農業改良普及課は今後も、ハウス内環境データの活用方法を提案して、キュウリの収量・品質向上に向けた指導を行っていきます。